

ようやくの積雪となり、また一段、寒くなったように感じます。毎朝、できる限り玄関前に立っていますが、「寒くないですか」と気にかけてくれる言葉や、ニッコリ微笑んで挨拶をしてくれる人たちから温かさをもらって何とかやっています。みなさん、2学期最後の日までよく頑張りました。この場にはいませんが、先日からスキー合宿に行っていて頑張っている人たちにも、このあとの言葉が届くよう願っています。

1月1日に発生した能登半島地震で始まった2024年は、改めて自然の驚異を感じさせられる一年でした。猛暑、集中豪雨、寒暖差の激しさ、これまでにない記録的な気象状況は多くの災害につながりました。もしかしたら、この冬、記録的な積雪となるかもしれません。

幸いにも、ここ城端は大きな被害に見舞われていないのかもしれませんが、しかし、今なお、地震や豪雨の被害や影響で大変な思いをしている方々がたくさんおられることを考えると、何もないときから、できることを考えておく必要があるのではないかと思います。少なくとも、もし、地震が起きたら、激しい雷がなったら、大雪で移動できなくなったら、どうするのか。中学校のホームページにも「安全に関する情報」のコーナーがありますので、いろいろな情報を見ながら、家の人とも確認してみてください。

さて、最近「響き合う学校」という言葉が気になっています。事務室の階段で振り返って2階を見上げたときに見える、城端中学校は「こんな学校を目指します」と書いてある4つのうちの1つです。

この2学期、3年生は、城中のリーダーとして後輩を引っ張ってくれていました。体育大会では、競技や係活動、応援など、至るところでそのたくましい姿が見られました。

2年生は、城中のよさを受け継いでくれていました。14歳の

挑戦や部活動・クラブの大会やコンクールで、学校の顔として真剣に取り組む素敵な姿を見せてくれました。

そして、1年生は、そんな先輩方についていこうと一生懸命でした。学習発表会での合唱への取組は、この行事がはじめての1年生とは思えない、カッコいい姿がありました。

そんなみなさんから、わたしたちもたくさんのエネルギーをもらうことができました。

互いを意識し合い、思い合うことで、「響き合い」が生まれる。それが一人一人の成長へとつながっていく。今の全校合唱もそうではないかと思えます。素晴らしい歌声を響かせようと合唱や校歌を精一杯歌える。3学期もそんな「響き合う城端中学校」であってほしいと思っています。

最後になりますが、県内の学校でも感染症の流行りの声が聞こえてきています。わたしたちも、みなさんの家の人も、友達も、みんなが無事に、そして元気に3学期をはじめられることを願って、終業式の言葉とします。